

令和 6 年 度 自 己 評 価 表

愛媛県立松山商業高等学校（全日制）
学校番号 (25)

教育方針	個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間の育成に努め、新しい職業観のもとに豊かな情操を身に付け、勤労と責任を重んずる資質を養い、国家社会の有為な形成者として創造性と実践力に富む心身ともに健全な商業人の育成を期する。	重点目標	地域社会に根ざした商業教育の推進 ー地域の持続的発展を担う人材の育成ー
------	---	------	--

領域	評価項目	具 体 的 目 標	評価	目 標 の 達 成 状 況	次 年 度 の 改 善 方 策
生徒指導	学校生活の基本の徹底	さわやかな「挨拶」ができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	B	昨年度教職員が85%今年度は93%と校内で挨拶ができると感じている割合が増えている。	引き続き、明るく、いつも、先に、常にを心掛け、挨拶の励行に努める。
		端正な身だしなみができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	生徒の自己評価で95%ができていると回答している。	頭髮など細かなところを教職員で意識統一して身だしなみを行う。
		皆勤率50%以上、年間出席率99.0%以上を目指す。 A:50%, 99% B:45%, 98% C:40%, 97% D:35%, 96% E:35%未満, 96%未満	B	皆勤率は50%を超えたが、年間出席率がわずかながら99%に届かなかった。	インフルエンザや新型コロナなどの爆発的な感染拡大に伴い、疑わし症状で休む生徒も多く、止むを得ない割合であると考ええる。
		清掃の意味を理解し、積極的に取り組む生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	生徒の清掃に対する価値観が年々低下しており、生活の場を清めることが心の成長に繋がるということを、清掃活動を通じてしっかり伝えていく必要がある。	監督の先生方に年度初めの指導を徹底するようお願いするとともに、担当範囲をできるだけ絞って、監督しやすい状況を作る。
	交通ルール・マナーの遵守	自転車のヘルメット着用率100%、重大交通事故0件を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	B	着用はできているが、100%ではない現状である。着用について、地域の方より指摘をいただくこともある。	継続的に呼びかけを行い、着用の意味を理解させ、自発的な着用を目指す。
	豊かな人間性と思いやり	いじめの未然防止に努め、早期発見・早期対応、早期解決 100%を目指す。	C	2つの事案で計14件のいじめをいじめ・不登校対策委員会で認知した。関係教職員が連携して生徒への聞き取りにあたり、保護者への説明にあたった結果、現在は鎮静化しているが、十分に関係が改善したとは言えない。14件のうちほとんどは双方の不用意な言動や行為に起因するもので、今後とも適切な指導や見守りが必要である。	今年度より、いじめ問題対策チームを組織し、対応している。痛感するのは初期対応の大切さである。いじめの芽の段階で発見・対応していくことが求められる。その際、一人の教員に抱え込ませず、教員が連携し、組織的に対応していくことを、いっそう心がけていきたい。
特別活動		地域との交流、ボランティア活動等に参加する生徒100%を目指す。 A:90% B:80% C:70% D:60% E:60%未満	A	イベントのボランティア活動には参加する生徒が多く熱心に取り組んだ。	地域交流、ボランティア活動の意義を理解させ、積極的に参加する生徒の育成を図る。
	学校行事の活性化	学校行事に主体的に取り組む生徒100%を目指す。 A:95% B:90% C:85% D:80% E:80%未満	A	運動会、商神祭など学校行事は主体的な態度で取り組み、生徒の満足度も高かった。	生徒が主体的に取り組み、魅力ある学校行事になるよう工夫する。
	部活動の活性化	四国大会出場12部以上、全国大会出場10部以上を目指す。 A:12部, 10部 B:10部, 8部 C:8部, 6部 D:6部, 4部 E:6部, 4部未満	B	四国大会出場10部、全国大会出場は8部であった。四国大会出場数は減ったが、全国大会は1つ増加した。ビーチバレー種目で国スポ2位に輝いた。	より高い目標を持たせ、意欲を高め、質の高い練習を行えるようにする。
		乳幼児、高齢者、地域の方々との交流活動における充実感100%を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	E	地域公民館行事への参加や保育園児を招いての交流を行い、生徒は主体的に取り組んだが、全員参加ではないため、評価が低くなったと思われる。	交流活動への積極的な参加を促すとともに、全校生徒が参加できる活動を考える必要がある。
学習指導	体験活動の充実	ビジネス実習・現場実習・1000日実習における達成感100%を目指す。 A:100% B:95% C:90% D:85% E:85%未満	E	実習直後のアンケートによると、「そう思う」が83%、「ややそう思う」17%であるが、学校評価アンケートでは65%と低くなっている。	実習直後の気持ちと時間が経過した時の気持ちに差があるので、直後の気持ちが継続できるような方策を考えたい。
		本校と協働活動を行った地域コミュニティの数10以上を目指す。 A:15 B:13 C:11 D:9 E:9未満	A	御協力いただいたコミュニティが77か所と本校の教育活動への関心が高いと感じられる。	多くの関わりのあるコミュニティと継続的に関係を保ち、様々な感動を生徒に提供していきたい。
		地域イベントに主体的に参加した生徒の延べ人数100人以上を目指す。 A:150人 B:130人 C:110人 D:90人 E:90人未満	A	参加生徒数は延べ193名と目標の倍となっており、地域イベントに対する生徒の関心も高く、一定の成果を収めたと感じている。	生徒各々が多様な活動に興味を持っており、それぞれの生徒に応じた活動にするため多くの団体と関係を持続けたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

学習指導	教科指導の充実	授業の内容がよく理解できる生徒85%以上を目指す。 A:85% B:80% C:70% D:60% E:60%未満	A	生徒対象のアンケートでは87%の生徒が授業の内容がよく理解できていると回答しており、教科指導が充実していると判断できる。	主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、タブレット端末の更なる活用を含め、今後とも授業改善に取り組んでいく必要がある。
		授業に積極的に取り組む生徒90%以上を目指す。 A:90% B:85% C:80% D:75% E:75%未満	A	生徒対象のアンケートでは90%の生徒が授業に意欲的に取り組んでいると回答しており、生徒が積極的に授業に取り組んでいると判断できる。	家庭学習への取組が不十分であると回答している生徒が多いので、課題等を工夫し、家庭学習の充実を図る必要がある。
進路指導	進路指導の充実	各種資格取得・検定合格者の増加を目指す。	B	数値目標を下回った検定が多く、全商検定試験1級3種目以上合格者は、165名であった。	検定試験は、進路実現や自己啓発に役立つことを理解させ、積極的な資格取得を進めていく。
		進学・就職において希望する進路実現100%、地元企業への就職率90%以上を目指す。 A:100%, 90% B:95%, 85% C:90%, 80% D:85%, 75% E:85%未満, 75%未満	A	(進学) 学校推薦型と総合型で、国公立大学合格者数32名(愛媛大学13名を含む)、松山大学115名の合格者を出すことができた。松山大学の合格発表を待つまで、進学希望者の進路実現はほぼ100%である。 (就職) 就職希望者39名中36名が地元企業に内定をいただいており、パーセンテージにすると92.3%と若干低めになってしまうが、本校生徒は地元企業への就職を熱望している。	(進学) 地元企業からも本校生徒の入社を期待されており、その期待に応えることができるように指導していきたい。 (就職) 共通テストでは、新規実施の情報についてはほぼ全国平均点をだすことができた。が、その一方で主要科目である国語と英語については全国平均点とはかなり開きがあるのが現状である。1年次からの取り組みから振り返り、改善していきたい。
		卒業1年後の就職先への定着率90%以上を目指す。 A:90% B:85% C:80% D:75% E:75%未満	A	定着率100%となっている。生徒本人と企業・仕事内容がマッチした結果であると考えている。	生徒自身が自分の適性を冷静に分析し、また、企業研究をしっかりと行わせることでミスマッチが起きないように指導していきたい。
業務改善	適切な勤務時間	ICT活用による業務の効率化や職員朝礼、会議等の精選を進め、業務の質的改善を目指す。	A	生徒用アンケートや各種調査など、各課から異なる形式でばらばらに出されていた調査等をFormsにより一元化した。資料のデータ共有によるペーパーレス化や資料の紛失防止、ICTスキルの向上に役立っている。また、職員朝礼の実施回数削減は、教員のゆとりを増やすことに役立っている。これまで慣習として行っている業務の方法を見直し、DX化を進めている。	校内人事や各部署の役割分担においては、教職員全員で学校を運営するという考えのもと、業務量の平準化を図るとともに、生徒と向き合う時間と教員のゆとりを増やすことを目指していく。
	職場環境の整備	同僚や管理職との信頼を構築し、働きがいを高め、職場づくりに努める。	B	毎月の出退勤状況記録表の確認や年2回(中間・年度末)の提言など、心身の健康に関する相談をしやすい環境は整備されつつある。	心身に変調をきたさないためにも、適材適所の役割分担と休暇等が取りやすい職場環境を整備する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。